

## 現状の課題の検討状況について

概要	詳細	平成 27 年度第 3 回協議会での報告内容	担当
(1) 歯科医の訪問歯科診療の実施状況などについて	歯科衛生士の活動状況の把握、市民からのニーズ、積極的にやっている、もしくは今後積極的に行っていこうという歯科医師がいるか、などのアンケートをとることができるか。	<p>平成 23 年から平成 27 年の往診の実績は、少しずつ増加を続けている。歯科衛生士の活動については未確認。</p> <p>アンケートは、それぞれの医院でできることの記入を想定している。摂食嚥下機能訓練はさらに項目を分けて示す。歯科関係以外の方から意見をいただき改訂したい。平成 28 年 4 月に実施予定。</p> <p>摂食機能療法の保険適用については、現在は少ないが、平成 28 年 4 月の診療報酬改定により少し緩和されるとの情報あり。</p>	高木（康）委員 伊藤委員
(2) 薬剤師の訪問薬剤管理指導の実施状況などについて	訪問薬剤管理指導の活動状況の把握(施設 or 在宅など)、麻薬の取扱い、中心静脈栄養、IVH 機材、ポンプ、24 時間対応、日曜日の対応を積極的に行っていこうという薬局があるのかなど、アンケートをとることができるか。	<p>アンケートは集計完了。</p> <p>49 保険薬局のうち 40 薬局は在宅患者訪問薬剤管理指導の届出を行っている。24 時間対応については、対応できる薬局は少ない。平成 28 年 4 月の調剤報酬改定や施設基準が取れるかどうかによって差が出ると思われる。</p> <p>アンケートの結果は、市や包括、保健センターなどに設置し、在宅対応可能な薬局の一覧という形で利用していただきたい。</p>	木全委員
(3) 各介護保険サービス事業所についての情報共有について	各事業所において、巡回型、吸引行為、経管栄養、インシュリン注射、吸引、膀胱カテーテルの交換、ガン末期患者や困難ケースの受け入れ、看取りなど、専門性や得意とする分野などの	<p>「介護保険サービス事業所一覧」を情報共有のベースとし、必要な情報を追記する。関係者がこの 1 冊で「この事業所はどういったサービスができるか」が分かる冊子を 8 月ごろには完成させたい。作成後は、年 1 回更新する。</p> <p>介護サービス事業者連絡会の各部会において、どのような情報の掲</p>	岡田委員 大野委員 田中委員 四宮委員 宮越委員

	整理ができるか。	載を希望するか、統一のフォーマットにてアンケートを実施する。	瀬口委員 鈴木委員
(4) 研修について	i) 医療関係者において、歯科、薬局を含めて研修を行えると良い。	平成 27 年度より歯科・薬局を含めた医療関係者を主な対象とした「医師とあゆむ勉強会」を開催。他職種の参加も可。 平成 28 年度以降も、定期的に在宅医療に関する題材をテーマとして取り上げて行う予定。	磯村委員
	ii) 地域包括支援センター、ケアマネジャー、訪問看護がお互いに勉強できるような研究会を行えると良い。	お互いの顔が見える連携を大切にするため、まず 9 月に座談会を開催し、それぞれの立場から忌憚のないご意見をいただく。互いの専門性や弱点を受け止めつつ、よりよい連携に向けて話し合う。 座談会より挙げられた課題点等をテーマとし、12 月に第 1 回の勉強会を開催する。	宮下委員 大野委員 四宮委員 宮越委員 瀬口委員 鈴木委員
	iii) 日程が重ならないように、調整が必要。	医師会の見解は、サポートセンターでまとめるのは難しい。 誰かが情報の取りまとめを行い、ホームページなどに掲載するなど、方法を検討する。	—
(5) わた史ノートの普及・啓発について	わた史ノートをただ渡すだけでなく、包括やケアマネジャー、民生委員、区長など、話すことのできる人を養成できると良い。	平成 28 年度中に、市民や医療・介護従事者のうち希望者を対象に として、試験的にわた史ノート利用講座を開催する。 試験的に開催した講座の成果を踏まえ、今後の講座の内容や開催方法を検討するが、どこをゴールとし、どこまで目標に近づけられるかは市と調整しながら進める。	渡邊委員 大野委員 四宮委員 宮越委員 瀬口委員 鈴木委員 高木(大)委員

<p>(6) 療法士の取り組みについて</p>	<p>療法士の今後の取り組みについて、具体的に誰がどのようにやっていくか、計画を出してもらえると良い。</p>	<p>平成 27 年 9 月に連絡会を設立。</p> <p>市の出前講座や市内の集まりに出向いて介護教室を行う。4 月の総会の折に各自の参加可能レベルを集約する。活動できる人の一覧などを作りたいと考えている。</p> <p>平成 28 年度中に 1～2 回、脳卒中の方の交流の場を設ける。具体的な内容は検討中だが、リハビリは行わない。将来的には、参加者で何か催しができればと考えている。</p>	<p>大橋委員</p>
<p>(7) 病院とケアマネジャーの連携について</p>	<p>病院とケアマネジャーの連携について、連絡方法など、意思の疎通を図っていけると良い。</p>	<p>(介護側)</p> <p>医療機関とは、入院・外来を問わず基本的に「小牧市版医療連携シート」により連絡をとる。</p> <p>医療連携シートの活用については、個々のケアマネにより方法が様でないと思われる。介護支援専門員連絡協議会として活用手順などの説明会を平成 28 年度中に開催する。</p>	<p>田中委員 大野委員</p>
		<p>(医療側)</p> <p>事業所などからの問い合わせは地域連携室で対応する。病床訪問時、事前に地域連携室に連絡をもらえれば MSW などが案内できる。</p> <p>要支援・要介護の患者が入院した場合、在宅での情報を医療連携シートで共有できればと考えている。情報提供の範囲については、介護側の職員とすり合わせをしたい。</p>	<p>菅沢委員</p>
<p>(8) ICT の構築について</p>	<p>小牧市において、統一した形で ICT を構築できると良い。</p>	<p>医療介護総合確保法に基づく愛知県の計画として在宅患者情報を共有するシステムを平成 27～29 年度で整備することとなっており、当協議会においてもご意見をいただきながら整備を進めていく。</p>	<p>高木(大)委員</p>